
とある平穩を愛する男と勇者の恋

脇役の男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある平穩を愛する男と勇者の恋

【Nコード】

N3442W

【作者名】

脇役の男

【あらすじ】

どこにでもいそうな顔、髪は常にボサボサがトレードマークの男リックィ。目立たずに生きていくことがモットーだったがひょんなことから、女勇者リリスの従者をする事になり、旅に出ることに。主人公が目立たないように暮らしたいという想いとは裏腹に次々とトラブルが舞い込んできて解決する度に女の子がついてくる！？これは平穩を求めたがためにさらなるトラブルに巻き込まれる男のラブコメディ、ハ・レム、そして何気に最強な物語。残酷な描写や性的な表現が多分にあります。

苦手なまたは閲覧から戻るを押して下さい。

(作者の自己満足全開ですのであしからず)

R15は保険です。

遺跡にて

「ふむ、ここは足止めをしますのでリリースは逃げて下さい。」

どこにでもいそうな平凡な顔であえていうなればボサボサ頭がトレードマークの男が努めて冷静に

呟いた。

「でも、リッキ-は？そもそもこんなに囲まれてるのにどうやって逃げるの！？」

リリースという名で呼ばれた金髪碧眼のロングヘアの整った顔立ちの美少女はおろおろしながらも涙を目一杯溜めて叫び返した。

「こうするんです」

男は突然、天井に手をかざし

「我、親愛なるものに道を開け！リフレイン」

かざした手から光が溢れ出しそれは少女を包み込んだ。

「え、まさか！転移魔術！ダメ」

少女は焦ったように叫んだが既に遅し。あつという間に少女は掻き消えた。

「これって便利なんですけど自分に掛けれないのが不便なんですよね」

男はどこか気が抜けた感じで独りごちた。

「さて、勇者様も逃がしたことですし、そろそろ本気でいきますか。」

「

男の雰囲気我突然、鋭い刃のような殺気を醸し出す。

そんな雰囲気当てられたか、モンスターが一斉に殺到した。

「我、呼び出す冥王の苦痛。無音に帰す、亡者の呻き。」殺界“ブルートデジョン”

周囲に突然現れた黒い霧がモンスター達を包み込む。

「があ！！！！」

呻きながらモンスターの姿が薄らぎ、跡形もなく消失。

「後はあのデカぶつですか。」

目の前の岩の塊に手足が生えたようなゴ・レムを見て溜息をつく。

「ごおおお！！」

岩の塊が震えだし、辺りに地鳴りが鳴る。

「とりあえず、相手さんもやる気満々みたいですし、私も久々にアレ”をやるますか。」

男は手を前に翳し地鳴りを鳴らしながら走ってくるゴ・レムに向かつて

「我、開く禁断の枢、魔も神もすべからく滅する。赤光”ア・クライト”」

翳した手から辺り一面を覆い尽くすほどの光が溢れ出し、光の奔流は一気にゴ・レムを押しつつみ、呻くことすらできず消滅した。

「ふうやれやれ、終わりましたか。とりあえず入口に飛ばしたりリスに合流しないとダメですね。」

怒ってるのが目に見えてるんですが仕方ないですよね」

やっぱりどこか気が抜けた感じで溜息をつきながら入口に足を進める。

怒ってる表情は心配の裏返し？

リッキ-は若干足取り重く入口付近まで歩いていくと

そこには顔を膨らませた美少女リリスがいた。

「なんでいきなり転移魔術で飛ばしたりするの!？」

ぷりぷり怒ってるリリスもかわいいのですが、しかしなんでこんなに怒ってるのかさっぱり分からず、思わず声に出して聞いてしまった。

「なんでそんなに怒ってるんですか？」

それを聞いたリリスはいきなり泣き出して

「なんでって心配したからに決まってるでしょ！　そもそもどうやってあそこから出れたの!？　転移魔術は自分にはかけられないし。」
涙目で叫ぶ。

リッキ-は悩む。

どう説明しましょうか。

モンスター全部あの世に送ったとは言えませんし。

私が攻撃魔術や古代魔術が使えることは秘密ですし、ばれたら平穏な日々がなお遠のきそうですし。

そういえばアレがありましたね。

「実は閃光玉で目を焼いてやりました。

何せ特製なので慣れない人間が見ると確実に1日中目が開けられませんかから。」

ポケットから黒い玉を取りだし見せる。なにせリリスには回復、補助魔術と発明アイテムで戦うしか出来ないと伝えてるし見せていないのでごまかすしかない。

「だからって突然転移させることはないでしょ!！」

どうやら勝手に転移させたことにお冠のようですね。　ならば

「すいません。でもリリスには傷付いてほしくなくて咄嗟に転移させてしまいました。気分を害されたのなら謝罪します。」

私はいかにも申し訳なそうに謝るとリリスは顔を赤らめ

「もういいわ！許します。でも次は一緒に逃げたり戦うからね！」
「どうやら機嫌は治ったらしい。」

「ではギルドに調査報告にいきますか。」

今回の目的は遺跡の調査依頼だったので報告に行くと促すと

「わかったわ。」

二人は遺跡を後にした。

リリス視点

ホントにこの人は心配ばかりかけて！

でも傷付いてほしくないと言われたときは嬉しかった。戦う力がほとんどないのに守ることに躊躇がなくて助けてくれる。

でももう少し頼って欲しい。だって私勇者ですし。ま、いいです。

次こそはリッキと一緒に戦います。そして私だって戦えるところを見せてあげます。

リリスは妙に張り切った感じでリッキの隣に並んで街に向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3442w/>

とある平穏を愛する男と勇者の恋

2011年10月9日15時54分発行